

【研究1-2】

研究課題

育児期にある夫婦ペアレンティング

—互いの批判をめぐって—

1. 緒言

父親の情動の特徴は、同情、誇り、安心、希望、感謝であった(清水, 2006a)。特に同情、誇り、安心は母親に比べて父親が高かった。父親の育児幸福感は、あくまでも子どもを中心とした育児事情ではあるが、妻に対する同情や誇り、感謝の情動がみられていた。夫は子どもと接する機会が少ないためか、喜びや愛情の育児事情は少なかった。夫に対して、遊びを通して子どもと関わる時間を増やして関係性を保つこと、妻と子どものことを愛すること、家族との時間を大切にしていくこと、妻に対する感謝や誇りの感情を言葉で伝えていくことが支援として有効であると考えられた。

母親が育児をより安定して行うために夫が重要な役割を果たしていると考えられる。夫の家事・育児協力時間が多く、具体的な育児協力のある夫の妻は育児ストレスが低く(清水, 2003a)、夫婦関係満足度も高まる(田中, 2014)。家事・育児時間が長い男性ほど夫婦の役割分担に関する話し合いの結果について「夫婦の適切な役割分担について、納得した」と回答している(清水, 2003a)。また、子どもの成長とともに育児への自信がなくなることからも(清水, 2017)、出産後早い段階で互いの協力に対する話し合いも重要になってくる。この時期に改めて夫婦の役割分担の話し合いを持つことが大切になる。加えて、縦断研究により1歳半の子どもをもつ母親が夫に打ち明けて相談できることで、育児への自信を高めることに影響していることが明らかとなり、この時期の夫婦を対象としたプランが有効であると考えられる(清水, 2017)。夫婦ペアレンティングの促進行動は、育児期にお互いが考えていることや求めていることへの理解を深め、コペアレンティングの視点(加藤他, 2014a;加藤他2014b)から、夫婦で互いを理解し助け合い、互いに影響し合いながら、親としての役割をどのように行っていくかを追求し、より良い子育てを可能とすることを目指す重要な行動と言える。今後は縦断調査や質的調査によって父親の育児関与増加を阻んでいる要因や夫婦ペアレンティングを明らかにする課題がある(青木, 2009)。

2. 研究目的

妻の批判行動に目を向け夫婦ペアレンティング研究として、どのようなペアレンティングが繰り広げられているの

かを明らかにする一助として、夫婦がお互いの育児への言動を批判する働きについて取り上げ、互いが相手から批判された時の心理や批判の根底にある考えを明らかにすることを目的とした。

3. 研究方法

(1)調査対象

3歳から4歳の子どものもつ夫婦1062名に調査用紙を配布した。

(2)調査期間

調査期間は2018年10月から2018年12月であった。

(3)依頼方法

幼稚園並びに子育て支援センターへ調査協力をお願い文と共に質問紙を同封し直接研究者が説明をして施設管理者に協力を依頼した。父母それぞれへの質問紙の依頼文には、回答後母親と夫の質問紙を別の封筒に入れて封をして園またはセンターに持参すること、調査の協力にあたり、調査に協力をしない場合や途中で辞退しても不利益がないこと、利益として子育てにおける自分の考えや思いを振り返る機会となることを明記した。調査用紙は施設責任者から対象者に配布され、回収は施設に設置された回収BOXにいれ匿名性を担保した。調査は無記名で行ない、調査用紙の表紙の同意チェック欄にチェックされた場合研究への同意が得られたものとした。

(4)研究デザイン

質的記述的研究

(5)調査内容

行われた調査において質的なデータと話し合いの実態に着目した。

選択的回答

- ◇ 子どもが生まれてからの生活についての話し合い
 - ・話し合いの有無
 - ・話し合いの時期
 - ・話し合いの頻度
 - ・話し合いの内容に納得したか

自由記述式回答

- ◇ 育児行動を批判されたときどのように感じ受け止めたか
- ◇ 年齢
- ◇ 子どもの人数
- ◇ 子の年齢
- ◇ 同居家族
- ◇ 就労形態

(6) 研究倫理

調査の依頼文には、自由意思による協力であること、調査・分析終了後はデータを破棄することを明記した。倫理審査は研究者の所属する機関内の倫理委員会の審査を受け2018年に承認（#274）を得た。

4. 結果

調査用紙の記述による回答項目に記載のあった妻は185人、夫140人計325人であった。結果を以下の表に示す。

(1) 対象者の属性と育児状況

表1 対象者の属性

	母親 n=185		父親 n=140	
	mean±sd			
年齢（歳）	37.5±4.7		39.4±6.0	
子ども数（人）	2.1±0.7		2.0±0.7	
末子年齢（歳）	3.2±1.9		3.0±1.9	
職業家事従事				
フルタイム	99	53.5%	1	0.7%
パートタイム	6	3.2%	125	89.3%
その他	59	31.9%	0	0.0%
育休中	11	5.9%	14	10.0%
家族形態				
核家族世代	10	5.4%	非該当	
三世代世帯	168	90.8%	128	91.4%
	17	9.2%	12	8.6%

(2) 育児に関する話し合いの状況

表2 夫婦の子育てに関する話し合いの状況

話し合い	N（人数）	妻				夫			
		した		しない		した		しない	
		n	%	n	%	n	%	n	%
時期									
結婚した時	した	23	15.1	33	17.8	23	18.7	100	81.3
	しない	129	84.9						
妊娠した時	した	75	49.3			50	40.7		
	しない	77	50.7			73	59.3		
出産後	した	114	75.0			95	77.2		
	しない	38	25.0			28	22.8		
頻度	数えきれないほど	100	65.8			77	62.6		
	5回程度以上	37	24.3			39	31.7		
	1-2回程度	15	9.9			7	5.7		
納得	した	101	66.4			90	73.2		
	しない	3	2.0			0	0		
	どちらでもない	48	31.6			33	26.8		

話し合いを行わなかった理由は、時間がなかった、その必要がなかった、相手が面倒がる、キレるから、生まれてからでないとわからないから、などであった。

話し合いの内容では、経済的なこと、子どもの教育について、子どもへのかかわり方、妻の仕事、家族計画、家事育児の分担、子どもの健康・成長・性格、住む場所や住居について、困っていることなどであった。

(3) 互いの批判

子育てに関する批判	妻	夫
受け止め方	夫からの批判で感じた気持ち	妻からの批判で感じた気持ち
マイナスの受け止め	<p>夫に批判されて落ち込む 悲しい全否定された気分、人格否定、 自信がなくなり消えてなくなりたい、 ショック、 理不尽な気持ち、 わかってもらえず辛かった、 あきらめの気持ち、 またか、気持ちが落ちた、 理解されないさみしさを感じる、 自分がただ振り回されている感じ、 開き直って忘れる、聞き流すようにする</p> <p>夫から批判されて攻撃的な気分になる ムカつく、腹が立つ、頭にくる、 イライラする、 そういうあなたはどうかの、 何もしないのに口出ししないで、</p>	<p>妻に批判されて落ち込む 残念、 やる気を損なう、 子育てをやっていけるのか不安、 自分なりに頑張っているの、 にしょうがないと感じた、 申し訳ない気持ち、 悲しい、 そういわれてもうまくできない、 力不足を痛感させられた、 妻は頑張っていて、自分はダメな人間だ、 本当にすみません、 悪かったなと思う</p> <p>妻から批判されて内心怒りを感じる 不愉快に思う、 そんなことはないだろう、 口出しするのをやめようと思う、 ムカつく、素直に受け止められず反発してしまう、</p>

	<p>ストレスだった、 怒りがこみ上げ泣けてきた、 うるさい、 何もしていないのに批判するのはおかしい、 わかっていないのはあなた心の中であきれる</p>	<p>小言が多く嫌だイラっとするが、その後冷静に考えようと問いかける、 腹が立つが我慢している批判ばかりだとやりたくなくなる</p>
<p>プラスの受け止め</p>	<p>夫に批判され自らを振り返る 不十分なところを自覚している、 自分のしていることを反省する、 直そうと思う、 足りないところに気づかされた、 一つの意見として参考にする、 後で振り返り相手の気持ちを知り受け止め改善した、 その通りだと納得し直した</p> <p>夫から批判されることに感謝している サポートされている感じ、 自信がないからむしろ相談したい、 ありがたい気持ち、 私と子どものことを思ってくれている</p>	<p>妻から批判されても気にしない わからないことに対して言われても何も感じない、 いろんな意見があるんだと実感した、 父親としての考えでしているので参考程度、 妻はイライラしているので何を言ってもむり、 人には考え方がいろいろあると思う、 そういう考えもある、あまり気にしない、 どうでもいいじゃんと思う、 流す、 子どもに合うやり方は一つではない、 心のバランスのため深刻に受け止めないようにする</p> <p>妻に批判され自らを振り返る 納得して意識改革をした、 新たな気づきに通じる、 子どものため直さないといけないと思う、 妻が思っている以上に協力できていない、 なるほどと思うところがある、 自分でも反省するところがある、 考えを受け入れ修正する、 仕事を休む時は休む、 納得できることであれば反省しなおす、 自分の子どもへの言葉遣いに気づく そのまま素直に受け止める、 一番子どもと接していて理解しているための判断 妻に従おうと思った、 納得いかない点もあるが、主に面倒を見ている妻なので仕方ない</p>

(4) 批判の背景にあるもの

批判の背景にあるもの	妻	夫
主たる背景	妻が考える	夫が考える
互いの性格傾向による	<p>自分の性格がそうさせている 感情的になりやすい、 自己中心的なところ、 独断的なところ、 ぐちぐちと引きずってしまう、 先を見て行動する、 冷静さが無い、 要領が悪い</p> <p>夫の性格がそうさせている タイプA(血液型A)だから、自己中心的、 視野が狭い、その場しのぎ、 感情的なところ、 客観的、理論的なところ、 冷静さ、先を見て行動する、 常に自分が正しいと考えている、 心配しすぎ</p>	<p>自分の性格がそうさせている 自分勝手なところがある、 自分の視野の狭さ、 おおざっぱなところ</p> <p>妻の性格がそうさせている 何かした後すぐにすぐかたづけないと気が済まない、 短絡的な考え方、 注意力が細かいところ、 否定的なことを発するのが好き、人を困らせたい完全主義なところ</p>

	<p>夫はその時の気持ちをぶつけているだけ 仕事が忙しい, イライラしている, やつあたりしている</p>	<p>妻はその時の気持ちをぶつけているだけ ホルモンバランスが悪い, 子育てのイライラがある, 予定通り物事が進まないストレスがある, リフレッシュが足りていない, オーバーワークで疲労状態, 子どもの行動への不満がある, ストレスのはけ口, 疲れているんだなど感じる, 八つ当たりしたいのだろうし、見守る</p>
<p>生育歴や育児観の違い</p>	<p>夫は父親としての威厳を示したい 自分はパパであることを見せたい, 父親の言うとおりにすることを示したい, 自分の方が力がある自分が一番偉い, 文句を言うなど考えている</p> <p>夫には理想の子育てがある 思い通りにやりたい, 手抜きしてほしくない, 理想の母親像がある, 子どもへの愛情, ネット情報に固執している, 一般的な子育て論で見ている, 子育ては妻の仕事と思っている, 社会的な立場からの発言が多い, 他と比較したいサポートしたいと思っている</p> <p>育った環境が違う 育ちが違う、考え方が違うのは当たり前, 母子家庭で育ち、父親のとしての関りがわからない, 男女差やジェネレーションギャップもある</p>	<p>育児観の違いがある 考え方や方針が違う, 価値観が違う, 迷いながらも子どものためと思いやっている, 育児に対するスタンスの違い, 自分には育児に対する目標がない, 感覚や考え方の不一致がある</p> <p>妻には子育てへの考えがある 基本に忠実に考えろといった思いがある, 妻なりに信念があるのだと思う, 妻に強い偏った考えがある, 他者との比較子どもに対してよい親像がある本など勉強していると思うので任せる, 全ての基準に義父母にあるのが妻の考えにある, 全ては子どものためだと思う, 妻なりに正しいと判断する考えの根拠がある</p> <p>育った環境が違う その家によって違う、違う人間だから仕方ない妻の父と自分の落差考え方や方針が違う親からの教育の違い妻は厳しい家庭で育っている 怒られないで育っている生活環境の違い</p> <p>育児のやり方が変わってきた 時代の流れで育児のやり方が違う</p>
<p>家庭内の役割や関係性</p>		<p>妻は育児・家事への自分に対する不満がある 仕事の関係で出来れば妻に子育てをお願いしたい, どこかで自分ばかりという考えがある, 一人目の時に育児不参加だったことが大きな背景である, 仕事が忙しく子育てに参加できない, 子どもに関わっていない気持ちがある, 子どものことをあまり聞かないから, ちゃんとできていないことが多い, 自分の考えを押し付けてしまった, 育児に対して相手の求める水準に満たない, こうあってほしい姿とのギャップがある, 家事育児に対する考えがまだ足りない, 育児の時間がなく任せっきりになっている, 自分の育児に対する未熟さがある, 仕事より子育てが大変とっていて、どちらも大変と考える自分とのギャップがある, 子ども優先に時間を考えて行動していなかった,</p>

		子どもと妻で決めていることがわかっていない、 子どもに対する対応に不満がある、 やってほしい時にすぐ頼みを聞かないから
夫婦関係の歪み	<p>夫婦のコミュニケーションのずれ 理解しようとしなく、 馬鹿にしている、 協力がない相手を一人の人として認めていない、 夫は疎外感を感じている、 夫に相談しないところ、 愛情がなくなった、 本当に最低離婚を考えている、 根本的に合わない</p> <p>夫には不満がある 感謝の気持ちも伝えず夫も不満がたまっている、 家計管理や家事がおろそかになっている、 子どもの成長に不満がある、 自分を構ってくれない</p>	<p>妻は夫である自分に不満がある 会話がない、 妻は自分の考えを尊重していないと思っている、 たぶん嫌いだから、 自分に対する不満がある、 家族に対する感謝の気持ちをもっと言葉にしてほしい、 妻の育児ストレスを自分が受け入れてやれていない、 仕事ばかりだから、 帰りが遅く家にいなさすぎ</p>

5. 考察

(1) 夫婦の子育てに関する話し合い

本結果では、8割近くの夫婦は子育ての話し合いをしていた。話し合いをしなかった者の理由には、時間がなかった、その必要がなかった、相手が面倒がる、キレるから、生まれてからでないとわからないから、などであった。これらの理由から話し合わないケースでは、話し合いをすることが相手にとって面倒、きれるなどの状況にあり、協力して合意しながら子育てをしていくことが難しいケースと考えられる。子育ての話し合いは出産後が最も多く、現実的に話し合う必要に迫られている時期であると考えられた。その回数は数え切れないほど話し合っており、納得するまで話し合っているものが6割を超えていた。また、「その都度話をする」は「話をしたことがある」に比べ話し合いの位置づけがより身近なものとなっていると考えられる。以上のことから、子育ての話し合いは比較的良く行われており、その内容は様々である。納得するまで話し合う傾向がある中で、話し合いでは理想的な解決法が共有されることが多いと考えられ、日々の生活においては、現実には遭遇していない段階でのあるべき理想の話では、実行が難しくなる場合があると考えられ、その時々への対応が求められると考える。

(2) 妻と夫の育児への互いの批判の受け止め

妻と夫の互いの批判の受け止めで共通している点は、マイナスの受け止めとして批判されて落ち込むこと、さらに感情的、攻撃的になり、内心怒りを感じていた。落ち込む点、悲しい、やる気がなくなる、申し訳ないなどの気持ちであるが、妻はさらに全否定・人格否定されたと感じており、ショックや消えてなくなりたいなどの気持ちを抱いていた。子育ては母親の役割として大きいことを実感しているからこそ、妻の落ち込みは深いと考えられると共に、女性特有の感覚的な受け止め方(田中, 1998)が示されており、記述の内容からもそうした受け止め方が反映されると推察された。夫と違い、妻は特に攻撃的な気分になり態度や言葉に現れるが、夫は妻に比べると冷静な部分や我慢の心などがみられ、客観的な見方があると考えられる。プラスの受け止めで共通している点は、批判されたことに対して自らの言動を見直していた。また、夫の特徴では、気にしないという受け止めがあり、本研究では妻から批判されても関係ないと解釈したが、状況によってはマイナスにもつながり得ると考えられる。ある意味何を言われても動じない、聞き流す、参考程度にしかならない、やり方はいろいろあるから、など冷めた受け止めとも考えられる。また、妻の意見を尊重するしかないと考え、子育てを主としてやっている妻を尊敬している姿があった。また、一部の妻の中には、批判されたことに感謝の念を抱いているも

のもあった。その根底には、自分の足りなさを自覚し、夫への信頼の心を持ってサポートされていると感じていた。必ずしもマイナスの側面ばかりではないこともわかった。批判をどのように受け止めるのかは、背景にあることをどのように考えているのかにも関連していると考え、妻のマイナスの受け止めは、子育てを中心になってやっているからこそ熱くなりやすく、受けるダメージも大きいと考えられた。

6. 結論

夫婦の育児への批判をめぐって、その違いや特徴が明らかになった。夫婦の認識や受け止めのずれが大きくなる前に、お互いの思いを伝達することや、親役割観の見直し、育児観の尊重、不満な思いを伝え話し合うことが大切になることが示唆された

引用文献

青木聡子(2009). 北米における離婚経験のない夫婦のコペアレンティング研究の現状と課題—我が国の今後の育児研究に向けて (fulltext). 学校教育学研究論集, 20, p17-27.

渥見由喜(2010). 夫婦の愛情曲線の変遷, 日本経済新聞出版社.

ベネッセ次世代育成研究所(2011). 第1回妊娠出産子育て基本調査フォローアップ調査(妊娠前から2歳児期), pp. 1-19, 64-68.

Cowan, P. A. & Cowan, C. P. & What an intervention design reveals about how parents affect their children's academic achievement and behavior problems. In brokowski, J. G., Ramey, S. L. & Bristol-Power, M. (Eds.) (2002). Parenting and the child's world: influences on academic, intellectual, and social-emotional development. London:Lawrence Erlbaum Associates., p. 75-97.

五百田達成(2015). 察しない男説明しない女 男に通じる話し方女に伝わる話し方. ディスカヴァー・トゥエンティワン, pp. 20-46, 東京, ディスカバー.

Belesky, J., Kelly, J. (1995). The Transition to Parenthood 子供を持つと夫婦に何が起こるか 安次嶺佳子訳 草思社, pp. 34-60, 133-167, 東京, 草思社.

柏木恵子, 平山順子(2003). 結婚の“現実”と夫婦関係満足度との関連性—妻はなぜ不満か—心理学研究, 74(1), p. 122-130.

片岡優華(2015). 妊娠期から育児期における夫婦の葛藤と意思決定に関する文献レビュー. 創価大学紀要, 1, p. 3-13.

加藤道代(1999). 育児初期の母親の養育意識・行動とサポート資源. 国立婦人教育会館研究紀要, 3, p. 53-59.

加藤道代, 黒澤泰, 神谷哲司(2014a). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討. 心理学研究, 84(6), p. 566-575.

加藤道代, 黒澤泰, 神谷哲司(2014b). コペアレンティング—子育て研究におけるもう一つの枠組み. 東北大学院教育学研究科研究年報, 63(1), p. 83-102.

狩野真理(2013). 性役割観と夫婦関係満足度に関する質的研究. 竜谷大学大学院文学研究科紀要, 35, p. 1-16.

Lazarus R, Folkman S, (1991)/本明寛他監訳. ストレスの心理学, pp. 269-277, 実務教育出版, 東京.

McBride, B. A., Brown, G. L., Bost, K. K., et al. (2005). Parental identity, maternal gatekeeping, and father involvement. Family Relations, 54, 3, p. 60-272.

中川まり(2009). 共働き夫婦における妻の働きかけと夫の育児・家事参加. 人間文化創成科学論叢, 12, p. 305-313.

中島久美子, 常盤洋子(2008). 妊娠期の妻への夫の関りと夫婦関係に関する研究の現状と課題. 群馬保健学紀要, 29, p. 111-119.

小野寺敦子(2005). 親になることにとまなう夫婦関係の変化. 発達心理学研究, 16(1), p. 15-25.

Polit, D. F., Beck, C. T. (2010). 看護研究 原理と方法第2版, pp. 265-269.

桜井茂男, 大谷佳子(1997). “自己に求める完全主義”と抑うつ傾向および絶望感との関係. 心理学研究, 68(3), p. 179-186.

佐々木裕子, 関健介, 高橋真理(2019). 妊娠期からのペアレンティングプログラム「赤ちゃんの根付付準備講座」web教材の開発. 杏林医会誌, 49(3), p. 205-216.

佐藤奈保(2008). 乳幼児期の障害児をもつ両親の育児における協働感と相互協力の関連, 千葉看会誌, 14(2), p. 46-53.

清水嘉子(2003a). 母親の育児ストレスと夫の家事育児協力. 子どもの虐待とネグレクト, 5(2), p. 396-406.

清水嘉子(2003b). 育児ストレスの実態研究—ストレス情動反応を中心にして—. 母性衛生, 44(4), p. 372-378.

清水嘉子(2006a). 父親の育児ストレスの実態に関する研究. 小児保健研究, 65(1), p. 26-34.

清水嘉子, 伊勢カンナ(2006b). 母親の育児幸福感と育児事情の実態. 母性衛生, 47(2), p. 344-351.

清水嘉子(2008). 父親の育児幸福感—育児に対する信念との関係—. 母性衛生, 48(4), p. 559-567.

清水嘉子(2017). 乳幼児の母親の心身の状態に関する縦断研究. 日本助産学会誌, 31(2), p. 120-129.

清水嘉子, 関水しのぶ, 遠藤俊子(2010a). 母親の育児幸福感尺度の短縮版尺度開発, 日本助産学会誌, 24(2), p. 261-270.

清水嘉子(2010b). 母親の育児ストレス尺度—短縮版作成と妥当性の検討—. 子どもの虐待とネグレクト, 12(2), 261-270.

田中慶子(2014). 夫の家事・育児と妻の夫婦関係評価, 季刊家計経済研究, (104), p. 23-33.

田中富久子(1998). 女の脳・男の脳. pp39-116, 東京, NHKブックス 10348.

矢倉紀子, 原口由紀子(2002). 父親の子育て参加の実態とその関連要因—K町の母子保健協会のアンケート調

査から一. 家族看護研究, 7(2), p. 145-151.

涌水理恵(2016). ペアレンティングプログラムが発達障がい外来に通院中の児・親・家族に与えた効果についての定量的/定性的考察, 家族看護学研究, 21(2). p. 158-170.

Van Egeren, L. A. (2003). Prebirth predictors of coparenting experiences in early infancy. *Infant Mental Health Journal*. 24(3), p. 278-295.

清水嘉子 (2020) . 育児期にある夫婦ペアレンティング-互の育児の批判をめぐって-. 日本助産学会誌, VOL34 No1, 103-113.
10.3418/jjam. JJAM-2019-0009 一部加筆